

## 株式会社アドバンテスト

### 2021年3月期(2020年度)第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

2020年10月29日(木)

- Q: 市場環境の変化が本当に速く、3カ月前とは様変わりしているが、いつ頃から潮目の変化を感じたか？
- A: 業績予想の上方修正を決断したのは10月後半のことなので、つい最近大きく変化したと言って良い。テストの事業環境は、米中摩擦の影響下、これまでもめまぐるしく変化してきたが、スマートフォン関連の情勢が確定的となった9月半ば以降は、顧客内で余剰となったテストの転用が加速したり、追加のテスト投資が検討されるなど、顧客の動きはかなり活発化している。それらの業界動向を業績予想に反映した。
- Q: スマートフォン関連市場での最新の競合状況を可能な範囲で示していただきたい。
- A: 北米スマートフォン大手の一部半導体では、当社の劣勢が続いている。しかしそれ以外の品種・顧客では当社製品が主に採用されており、スマートフォン関連需要における顧客数で見れば当社が勝っている。一方で、北米スマートフォン大手のテスト投資の規模が毎年のテスト市場のシェアに与える影響はかなり大きく、それが毎年の大きなシェア変動につながっている。
- Q: メモリ・テスト市場では競合企業がビジネス伸長をアピールしているが、そちらの競争状況はどうか。
- A: われわれの牙城であった DRAM 後工程に米国競合が参入した事実はあるが、当社が大きくシェアを失っているという認識はない。またメモリ・テストの市場シェアに今後大きな変動があるとも考えていない。それは、もともとメモリ・テスト市場では顧客の2社購買政策のもと競争が行われており、その中で当社は韓国ローカルの企業と競いながら60%前後のシェアを維持してきたという背景があるため。今回その2社購買の相手が変わったが、市場シェアは維持できていると認識している。
- Q: 今回、受注高の通期見通しを2,400億円から2,600億円へ引き上げている。その差分200億円はどの領域での需要の伸びを反映したものか。また下期の受注予想は上期実績を上回る予想となっているが、3Qと4Qの受注の水準感についてもお示しいただきたい。
- A: 受注高の上方修正内容については、主に SoC テスタの需要増を反映したものの。また下期受注は、現状3Q・4Qで概ねフラットな推移を見込んでいる。4Qに関しては、コロナウイルスの感染拡大状況など先々を見通しづらい面があるが、現状では3Qと同水準の受注高を見込んでいる。

- Q: システムレベル・テスト事業の受注は、前年度非常に高い水準であったと考えているが、今年度の受注については前年度比どのような水準を予想しているか。
- A: 20年度のシステムレベル・テストの受注については、前年度比で減少する見通し。ただ売上高については、2Q実績においても、通期見通しにおいても、サービス他セグメント内における構成比は上昇中。
- Q: SoC テスタの事業見通し説明の中で、サプライヤーにおいて在庫を積み増す動きがあるという説明があった。ファーウェイ以外のスマホメーカーが相当アグレッシブに投資を行っている中で、テスタの需要が実需以上に足元押し上げられているリスクは無いのか？
- A: SoC テスタの需要が9月以降伸びているが、これはスマートフォンメーカー間のシェア争奪の影響によるもので、需要が水増しされたものではなく、実需に基づくものであると分析している。一部にはダブルオーダーにつながっているケースもあるかもしれないが、基本は一時的に余剰となった顧客内のテスト能力以上に、将来の使用見込みの確度が上昇し、その結果受注が増加した、という流れと認識している。
- Q: プレゼンテーションにおいて来年の市場成長に対する期待を示しているが、2021年のSoC テスタ市場、メモリ・テスタ市場それぞれの規模感を教えてほしい。
- A: 来年の市場規模の推定には米中関係、コロナウイルスの感染状況、顧客の投資動向など、さまざまな要素を考慮する必要があり、正確な予測を行える状況にまだない。ただ肌感覚としては、SoC もメモリも伸びて行く方向と捉えている。SoC では、スマホ関連や HPC/AI 関連での先端プロセス品の採用拡大、そして需要回復の兆しを見せている車載向けのアナログ IC や MCU などの需要増に期待している。メモリでも、微細化や 3D NAND の容量増加がもたらすテストタイムの伸びや、顧客の生産能力の増強など、さまざまな市場拡大要素に期待している。
- Q: 半導体・部品テストシステム事業の収益性について確認したい。今年度はセグメント利益率が26-28%前後の推移となっているが、過去は30%を超えた時期もあった。SoC テスタの需要が順調に増加していけば、過去のピークマージンに再び到達できる可能性はあるか？
- A: 足元のマージンのトレンドには、収益性が良好な SoC テスタの売上が今年度は約400億円ほど前年度比落ちこむ予想になっていることが影響している。将来 SoC テスタの売上が2019年レベルに近づけば、かなり利益率は改善できるのではないかと考えている。
- Q: 2Qの受注は3か月前の予想に比べ、90億円上振れて着地した。何が上振れたのか教えてほしい。
- A: SoC テスタが80億円強、上振れて着地した。内訳としては、上振れ分のおよそ半分が車載・産機・民生向けで、4割がディスプレイ・ドライバーIC(DDI)向け。

- Q: 今年と来年の5G関連のテスト市場の規模感と、御社の売上見通しについて教えてください。
- A: 20年は当社が5G関連とみなしたアプリケーション・プロセッサ(APU)やベースバンド・プロセッサ(BB)などのテスト需要が全体で\$1B、そのうち40-50%のシェアを獲得したと推定している。21年以降については、5G基地局や5Gスマートフォンの台数が増加トレンドに向かうことや、スマートフォン市場での競争が活発な中で、ハイエンド5Gスマートフォンにはテストタイムが長い最先端プロセスを使った半導体が供給されていくであろうこと、この2点から5G関連需要の拡大を期待している。
- Q: 21年のSoCテスト市場は、御社にとって顧客ミックスが良好な環境になるのではないかとという期待があるが、市場シェアの展望について教えてください。
- A: 一部のスマートフォンのサプライヤーを除けば、スマートフォン関連市場では当社の広い顧客基盤と多様な製品ポートフォリオのプレゼンスは強いと認識している。スマートフォン市場が拡大すれば、テスト需要を広範囲に取り込み、全体的なシェアの底上げにつながると考えている。
- Q: 今回SoCテスト市場の見通しを\$2,700Mと、7月時点から\$300M引き上げた。この\$300Mの内訳を教えてください。
- A: \$300Mの内訳はAPUで\$240M、CISで\$30M、DDIで\$30M。APUの伸びは当社と競合で分け合い、CISとDDIが伸びた分は当社が恩恵を享受すると考えている。
- Q: 21年のテスト市場に関して、成長率の予測があれば教えてください。
- A: 現時点では、SoCテスト市場とメモリ・テスト市場ともに前年比1桁台半ばから後半の成長率を予想している。

以上

※本資料に記載されている内容は、決算説明会の質疑をもとに当社の判断で要約したものです。また本資料には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。